



るうてる



2017年
8月
No.836

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-1734

説教「すべてを信じの方に」

日本福音ルーテル札幌教会・恵み野教会牧師 日笠山吉之

「だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことを『存じ』である。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

(マタイ福音書6:31-33)



イエスさまが山上で語られた説教です。ここでイエスさまは、何度も「思い悩むな」と言われます。イエスさまの説教を聞いていたのは弟子たちであり、また群衆でした。彼らは、みんな思い悩む者たちです。日々の生活の中で、何を食べ、何を飲み、何を着ようか、と思いつぶす市井の人々です。当時イエスさまの福音に喜んで耳を傾けた人々は、貧しく、権力者から虐げられ、罪人として社会の隅に追いやられていた人たちでしたから、思い悩みに事欠くことはありませんで

そのように思い悩める人々を前にして、イエスさまは叱責されたわけではありません。自分の思い悩みにとらわれて視線が定まっていけない人々に対して、空の鳥を見よ。野の花を見よ。神が創られたありとあらゆる被造物を見よ。と促されたのです。彼らは人間の間に種も時かず、刈り入れもせず、倉に納めもしないのに、神は美しく装い養つてくださるではないか!と。

私も最近山登りをするようになって、この御言葉が実感できるようになりました。神が創られた素晴らしい被造物にあふれた山に登っていると、自分が悩んでいたことは実はたいしたことではなかった。と、気付かされることがあります。然り、思い悩みをことさらに大きくしていたのは、他ならぬ自分自身だったのだ、と。

日、政権与党の強引なやり方によって成立してしまっただけでなく、人と人との信頼関係も損なうてしまっている。今でさえ自分の意思を押し殺して相手の顔色を伺う付度がまかり通っているのに、もっと物が言えない社会が到来してしまつてはないかと危惧します。

私たちは、思い悩みに押しつぶされてしまつてはなりません。なぜなら、私たちの思い悩みのすべてを神は存じて、私たちに必要なすべてのものを神は与えてくださるからです。だとすれば、私たちはむしろ大いに思い悩みましょう。自分にも、他者にも、この社会、この国、この世界に対して思い悩みましょう。そして、それらの思い悩みを分かち合うのです。自分の内に隠すことなく、他人に付度することもなく、共に思い悩みを分かち合うのです。そうして、それらすべての思い悩みを神に伝える。私たちに必要なすべてのことを存じの神に伝え、訴え、祈りましょう。イエス・キリストの御名によって。



Fra Angelico, The Sermon on the Mount, Museo di San Marco, Florence

この御言葉によつて、イエスさまと一緒に山上までやって来た人々はハタと気がつくわけですか。足元で咲き誇っている名も

とはいえ、私たちの思い悩みに思いがけず外から降り掛かってくる出来事もあります。自分の願いに反して押し寄せてくる社会的な状況もあります。はからずもそれらに遭遇してしまつた時に、私たちはまた思い悩むことになります。私の目下の思い悩みは、先

まは言われたのです。「あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことを『存じ』である」と。あなたがたの思い悩みもその解決のために必要なものも、神はすべて存じなのだ。だからまず、神の御言葉に耳を傾けなさい。神のご支配がこの世に広がり、神の義がこの世に実現するように祈り求めなさい。そうすれば、すべてのものはみな与えられる!と。



⑰【Democracy】

高橋源二郎さんは、朝日新聞に連載していた「論壇時評」(2014年5月20日)で台湾の学生たちが立法院議事を占拠した出来事について書いています。

「占拠が20日を過ぎたころ、学生たちの間では占拠を継続するか撤退するかで意見が分かれます。『その時、ひとりの学生が、手を挙げ、壇上に登り、撤退するかどうかについて幹部だけで決めるのは納得できません』といった。この後、リーダーの林飛帆が『その行動は驚くべきものではなかった。彼は九日かけて占拠に参加した学生たちの意見を個別に訊いて回つたのである。最後に、林は、妥協案の受け入れ(撤退)を正式に表明した。すると、再度前日の学生が壇上に上がった。固唾をのんで様子を見守る学生たちの前で、彼は次のよ

るうてる法人会連合 公開講演会

8/22-23 に熊本にて開催される「るうてる法人会連合第12回総会」にあわせ、公開講演会を致します。

宗教改革を受けて社会形成をしたフィンランドの教会・教育・社会の現在を分かち合い、今後の私たちの方向性を考えるために、マスコミや教育・福祉の分野で活躍しておられる講師をお迎えします。

●日時 8月22日(火) 14:00-15:30
●場所 九州ルーテル学院大学・ルーテル学院中学高等学校
●参加費 1,000円(資料代)
●講師 坂根シルクさん

フィンランドに生まれ、宣教師の娘として大分で育つ。文化人タレント。東京農工大学リーディング大学院特任教員。



そして僕は思うのです。福音書の中に描かれている主イエスの業とは、社会の中で「最も小さい者の一人」(マタイ25:40)が、それでも自己を肯定し受け入れ「ありがと」ということのできる関係(コミュニティ)を築くことだったのでなかったか、と。僕は、自分の意見が少数派のときに、自分が病気になる障がいを負つたりしたときに、それでも「ありがと」といえる社会で生きていきたい。

岩切雄太
(門司教会、八幡教会、佐賀教会、小城教会牧師)



議長室から

心得として、上手に描くとか何とかいうことを考えてはいけないうという位里さんの言葉が添えてあります。「下手でもええ。下手のほうがあええ。その方が面白いんだ」とユーモアに富んだ言葉は、絵心のまったくない私に

平和の発信者たち

総会議長 立山忠浩

私の牧する都南教会の牧師室の壁には、「二人が描いた日々」というタイトルのカレンダーが掛かっています。丸木美術館の開館50周年を記念して作成されたものです。

とつては実に慰めです。ただ、二人は「原爆の図」を水墨画を基調にして描いた夫妻として有名なのです。埼玉県は東松山市にある同美術館にそれらは展示されていますが、初めて鑑賞したとき、衝撃は忘れることはありません。

幸いである（「マタイ5:9」という主イエスの教えは大切です。では、平和の実現のために何をすれば良いのでしょうか。暑い真夏の8月を迎えるたびに憶えなければならぬことは、過去の戦争の過ちの歴史であり、原爆に代表される人の命



愛する皆さんへ
ブラジル・ルーテル告白福音教会牧師
ルイス・メロ

の地で我が家にいるような気持ちを感じたい、同じ歌を歌い、喜びと神への賛美に満ちているからです。私たちが異なる言語を用い、見た目の姿にも違いがありますが、同じ信仰に生きる兄弟姉妹です。神は私たちを、異なる国で、異なる文化を持つ者であるにも関わらず、弟子として生きるように招き、兄弟姉妹とするのです。

この度左記の行為を致しますので、宗教法人法第23条の規定に基づき公告致します。

2017年8月15日
宗教法人
日本福音ルーテル教会
代表役員 立山忠浩
信徒利害関係人 各位



広がる「まつもと」子ども留学の働き

東教区プロジェクト3・11

谷口和恵（松本教区）

自主避難をしてきた福島の子どもたちが生活を営む松本市郊外の一軒家。年月が経ち、子どもも留学の形も少しずつ変わってきました。長期での生活を受け入れながら、休みの時に一時保護をする家族の受け入れが始まっています。今回は子どもたちのサポートをされている

現地スタッフのレポートをお届けします。子ども留学の働きを祈りに覚えて頂き、ご支援いただければ幸いです。



東日本大震災による原発事故で放射能に汚染されてしまった被災地を離れ、安心して学校生活を送ることができる場所を作りたいという一心で、「まつもと」子ども留学を立ち上げて4年目を迎えました。この間10人の子どもたちが、福島県の親元を離れて松本へ来て暮らし始めました。現在は「子ども寮」で暮らす女子3人と「

一般のご家庭にホームステイという形で暮らす2人の男子中学生を受け入れて頂いています。原発事故さえなければ家族との生活があったであろう子どもたちは、様々な悩みを抱えながらも子どもたちの持つ生きる力の大きさを目の当たりにして、支えてくださる周りの人たち、世界中の皆さまからの温かいご支援は勿論のこと、子どもたちの力の大きさに深く感謝する毎日です。

今年3月には、政府による自主避難者への住宅支援が終了しました。けれども、放射能とそれによる健康の不安はまだ

残っています。今の福島へは子どもを連れて帰れないという母子2組が、この春自主避難先から松本へ移住して来て、子どもたちのサポートを手伝ってくれるようになり、とても心強く思っています。

子どもたちが持つ力、その可能性を大切にできる、そんな社会であってほしいと切に願います。

「まつもと」子ども留学のウェブサイトをURR http://www.kodomoryu-gaku-matsumoto.net/

「まつもと」子ども留学のウェブサイトをURR http://www.kodomoryu-gaku-matsumoto.net/

＜連絡先変更＞
西条教会
新電話番号
082(430)4343
*FAXは変更なし
新メールアドレス
sk-1517@aurora.ocn.ne.jp
※カトリックとルーテルの共同声明に学ばず、紙面の都合により掲載いたします。



宗教改革500年に向けて ルターの意味を改めて考える (62)

ルター研究所長 鈴木 浩

「聖書(によつて)のみ」と語ったルターは、「恵み(によつて)のみ」「信仰(によつて)のみ」とも語ったし、「キリストのみ」とも語った。ルターは「この神学」に、端的に「この神学」であった。

対照的に当時のカトリック神学は、「恵みと人間の業(わざ)」「聖書と伝統」という具合に「〇〇と〇〇の神学」であった。

ここにそれまでの神学とルターの新神学との違いが鮮やかに示されている。ルターはこの「この神学」を最後まで貫いた。

この「のみ」は、通常「聖書のみ」「信仰のみ」「恵みのみ」とされるのが多いが、厳密に言つて「聖書によつてのみ」「信仰によつてのみ」「恵みによつてのみ」である。

この「〇〇によつてのみ」とは、われわれは、「どのようにして、神を知り、そのことで神の救いにあずかることができるのか」といつ

問いに対するルターの答えである。

わたしが中学生の時であったが、伯父が無線長をしていた新造のカツオ漁船で、伊勢神宮に連れて行ってもらったことがあった。伊勢神宮で新造船を「お祓い」してもらったためであった。

境内は、荘厳な雰囲気包まれ、あくまで透き通った小川には、勢よく鮎が泳いでいた。その神秘的で森厳な雰囲気は圧倒される思いがした。

だから、その広大な場所が神の臨在する「神域」とされていることも、納得できるような気がした。しかし、今思えば、それは単なる「雰囲気」に過ぎなかった。ルターが知っていたのは、そんな「雰囲気」ではなく、「神ご自身」のことであった。辿り着いた答えが、「聖書によつてのみ」「信仰によつてのみ」「恵みによつてのみ」であった。

第27回総会期 第4回常議員会報告

事務局長 白川道生

標記の定期常議員会が6月10日から12日にかけて、市ヶ谷センターにて開催されました。主な報告を記します。

▼各報告事項

この常議員会では、5月にアフリカで開催された「ルーテル世界連盟総会」に係る議長報告をはじめ、LCM会議(宣教協力関係にある海外教会と

定期的に行う、日本宣教を考へる会議等)とりわけ、JELCが今ままで保つてきた世界的な関わり、現状と課題に係る報告が重なる。質疑応答は、単に教会相互の歴史

定期的に行う、日本宣教を考へる会議等)とりわけ、JELCが今ままで保つてきた世界的な関わり、現状と課題に係る報告が重なる。質疑応答は、単に教会相互の歴史

支援活動の態勢に関する協議が行われた。地震発生から1年を経てなお残る被害と生活する方々の様子に関して、九州教区と救援対策本部の判断が伝えられた。この態勢の検討に際しては、東日本大震災の体験を通じて常議員会と

は、この方向を既に承認していること、学校施設の復旧を含む募金実施の方針決定は審議中であると述べられた。

帰国の相次いだ、宣教師の後任派遣に関する協議も行われた。既に昨年、神学教育並びに教会任命の派遣申請をしたが、現在までに米国でのリクルートに進展がないとの報告が共有された。しかし、生起している影響の大きさを鑑み、密接な連携をとって実行を図る姿勢の堅持が確認された。

互報告があった。加えて宣教室から、全国から積みあがってきている募金への感謝と更なる情報配信、カトリック教会との共同記念企画の拡散的な進展、ブラウンシュバイク教会の招待による合同聖歌隊への派遣公募の選考結果、宣教室担当のキャンペーン実施予定(8月にパンフレットと本を刊行する予定)と頒布計画等の情報共有と意見交換が行われた。



▼協議事項

まず、熊本地震に係る

「宗教改革500年記念事業」は、各教区で展開されている取り組みの相

▼その他の事項

2017年の人事委員会組織が提案され、例年同様の行程で進め、議長以下三役と各教区長による構成が決定した。

この他に、るるるる法人会連合総会に係る教会代表正会員公募の実施、

宣教会議の開催、日本福音ルーテル教会教師試験の実施、ブラジルから来日されたルイス・メロ牧師の日本研修期間の変更等につき承認された。

ルーテルアワー biblestudy.jp

「ルーテルアワー」のサイト [てあなの部屋]より

善い業のために 伊藤早奈

らの愛は私たちに注がれていることに感謝します。イエス・キリストのお名前を通して祈ります。アーメン

「わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたし、たちは、その善い業を行って歩むのです。」(エペソ2:10)

今朝はイエス様のお話を聴いたから、一日私は善い行いができるわ、と張り切ったとしても、自分の理想通りに動けなかつたり思っていたような結果が出なかつたりして「やっぱり今日も

ダメだったわ」とか「私ってやっぱりダメね」と思ったりしたことがありませんか。原因を周りの人たちのせいにして自分を正当化してしまつこともあるかもしれません。

私は高校生のときに洗礼を受けました。それこそ洗礼を受けるということとは、それまでの自分とは違わな

で意気込んでいました。本心にそうなのでしょいか。イエス・キリストによって生きるようになることは外見や行いが今までは違わ人間になることではありません。でも変わります。何が変わるのでしょうか。

それは「自分が生きていてもいいんだ」「私は神様に大切にされているんだ」「イエス様と共に生かされているんだ」と受け入れる生き方への変化です。神さまが私を通して善い業をなさることを受け入れる生き方です。そのために神様はあなたを造り、今もあなたがあなたらしく、そのままするようにつとめてくださいます。

詳細は、教会宛に送付される議事録をお読みください。

詳細は、教会宛に送付される議事録をお読みください。

祈りし神様、年々暑さが増している気がしますが、それでもあなたから与えられる季節の恵みを受け入れていきます。文句や不平を言うこともあれば感謝の思いが溢れること

祈りし神様、年々暑さが増している気がしますが、それでもあなたから与えられる季節の恵みを受け入れていきます。文句や不平を言うこともあれば感謝の思いが溢れること

祈りし神様、年々暑さが増している気がしますが、それでもあなたから与えられる季節の恵みを受け入れていきます。文句や不平を言うこともあれば感謝の思いが溢れること

祈りし神様、年々暑さが増している気がしますが、それでもあなたから与えられる季節の恵みを受け入れていきます。文句や不平を言うこともあれば感謝の思いが溢れること

祈りし神様、年々暑さが増している気がしますが、それでもあなたから与えられる季節の恵みを受け入れていきます。文句や不平を言うこともあれば感謝の思いが溢れること

祈りし神様、年々暑さが増している気がしますが、それでもあなたから与えられる季節の恵みを受け入れていきます。文句や不平を言うこともあれば感謝の思いが溢れること

宗教改革500年記念
ルーテル『聖書日課』読者の集い

日時 2017年10月16日(月)15時~18日(木)13時
講師 橋本昭夫先生(神戸ルーテル神学校元校長)
賛美 池上彩香さん(ソプラノ)
会場 日本福音ルーテル大阪教会(大阪市中央区谷町3-1-6)
宿泊 ホテル・ザ・ルーテル(同)
参加費 3万円
申込・問い合わせ ルーテル聖書日課事務局
〒514-0823 三重県津市半田3424-81-204
FAX 059-253-8789 (宿泊のシングル・ツインを明記)
申込金 内金として1万円
郵便振替 01080-4-12181 ルーテル聖書日課を読む会
締め切り 10月3日

追悼

刈谷教会と野口先生

平岡仁子 (保谷教会・日本ルーテル神学校)

手元に刈谷教会宣教40周年記念文集があります。そこに「17年間の思い出」と題された野口先生の文章があります。「1958年(昭和33年)の3月、宣教師館を訪ねたのが、刈谷教会との最初の出会いでした。・・・伊勢湾台風の影響で、碧園集会、緒川集会などに行つたこと、・・・特に、伊勢湾台風の後、静岡の聖書学院に行くまでの間、教会の屋根裏を借りて居候をしていたことなど懐かしい思い出がいっぱいです。・・・もうひとつの思い出は、1972年から1984年までの12年間、牧師として母教会で御奉仕をさせて頂いたことです。まだ駆け出しだった私たち家族を暖かく迎えてくださった教会員の皆様との思い出は、終生忘れることのない思い出です。」



野口幹夫牧師 1937年9月28日生まれ 1959年11月29日受洗 1969年按手 2017年6月19日召天

甘木教会百周年 梶原 潔(甘木教会)

初めに、7月の九州豪雨で被災され困難な状況の中にある方々に主の慰めがありますように祈ります。 2017年は宗教改革500年。そして、実は甘木教会の100年でもあります。 6月3日に80名の出席者で記念礼拝、併設する

聖和幼稚園で祝会を行いました。1950年に献堂された礼拝堂は満席で主の恵みにあふれたひと時でした。司式を角本浩主任牧師、白髭義牧会委嘱牧師、森部信引退牧師が、説教を江藤直純ルーテル学院大学学長にお願いいただきました。同じ信仰を持つ方々と、共に歌う讃美歌は礼拝堂をふるわせ、ささげる祈りで心一つとなりました。その光景に甘木教会員20名は胸を熱くし百年の信仰の歴史の豊かさをいまさらながら感じることができました。礼拝後の祝会では、昔を知る方々に多方面からコメントをいただき、それぞれの時代の教会の姿を思いを馳せました。 甘木教会の初めて礼拝が行われたのは1917年6月2日です。初代「武藤醇」牧師が現在の礼拝堂からさほど遠くない川原町で礼拝をおこなったと記録が残っています。それから33年後に礼拝堂が献堂され10年後には今の恵比須町へ移築してあります。さらに1952年には保育園の認可、翌年、幼稚園の認可を取得するなど社会事業にも力を注いできました。100年の歩みにつきましても、来年、記念誌を作成し詳しくご紹介したいと思っております。 百年記念事業の取り組みも行っています。老朽化してきた礼拝堂は床下防湿工事、外壁の塗り直しと玄関の全面改修を行いました。またチェロのコンサートや記念ポロシャツ、バッグの作成にも取り組みました。今後、聖壇の明り取り窓にみんなでアクリル板を使ったスタンドグラスを作成しはめ込む予定です。 100周年は新たな始まりでもあります。教会が生き生きと地域の中でこれからも証ができるように会員が一つなつて歩み続けたいと思っております。 皆様の主の平和がありますように。



大阪教会 宣教百年の歩み

犬飼 誠(大阪教会)

①宣教開始時期 日本福音ルーテル大阪教会は、1917年(大正6年)イースターに、天王寺村協ヶ岡の地で、ヘプナー宣教師の開拓伝道により始まりました。1927年(昭和2年)、天王寺区真法院(現在の天王寺教会の場所)に敷地を購入し、近隣の開拓伝道

を試みながら、1939年(昭和14年)に会堂を新築し、1941年(昭和16年)に自給しました。 ②戦争期 1942年(昭和17年)、ヘプナー師は、太平洋戦争の影響により帰国。小泉昂牧師も病状が悪化し、休職して静養を余儀なくされ、その代務者として神学校を卒業した吉崎三郎牧師が着任しましたが、赴任後まもなく出征し、フィリピンにて戦死されました。 ③戦後 1954年(昭和29年)、稲富肇牧師は立地条件の良い、大阪市東区谷町に鉄筋の新会堂を建立しました。天王寺にあった旧大阪教会礼拝堂は、1960年(昭和35年)に天王寺教会として株分けをしました。 ④大阪会館建築 日本福音ルーテル教会の経済的自立等のため、大阪教会は土地と建物をささげ、収益事業のホテルを併設した大阪会館の建築を決定しました。建築中、放浪しながら礼拝を守り、1975年(昭和50年)に大阪会館がオープンしました。収益は上がりましたが、宣教目的の教会(9階)と収益目的のホテル(1~8階)の同居には多くの問題がありました。 ⑤大阪会館建替 1997年(平成8年)、耐震構造等の問題により、大阪会館の建替えが検討されていたその矢先、松原清牧師が病に倒れました。しかし、総会で建替は決議され、一方、後任の牧師は決まらず、大阪教会は礼拝堂がなくなり、牧師も不在となりました。この危機を乗り越え、滝田浩之牧師を招聘し、2001年(平成12年)12月に新大阪会館がオープンしました。 ⑥宣教100年とこれから

ざっと、大阪教会の歴史を記載しましたが、この行間には、書き尽くせない試練と喜びのドラマがありました。歴代牧師の御尽力、信徒の貢献、全体教会や近隣教会の支援、そして何より神様が伴っていてくださり、2017年イースターに宣教100年の節目の時を迎えることができました。 大阪教会は歴史に感謝し、「神様の恵みが教会員一人一人に増し加わり、それが教会を発展させ、ひいては日本福音ルーテル教会全体に貢献し、神様の御国の建設に役立つ働きができるようにと祈りつつ進んでいきたいと思っております。



現在の大阪教会 (Google)